

学校だより

Vol. 76

2012
SUMMER

平成24年7月発行 鳥羽商船高等専門学校
広報・公開委員会「広報誌専門部会」
三重県鳥羽市池上町1番1号 TEL 0599-25-8013



(写真部提供)



- 校長式辞
- 学科紹介
- 国際交流
- 学生活動の紹介
- クラブの紹介
- 校内最新技術紹介
- 新任紹介
- 人事異動
- 学校通信



校長式辞

平成24年度入学式・本科・専攻科（生産システム工学）

校長 藤田 稔彦

鳥羽商船高等専門学校本科ならびに専攻科新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

四面を海に囲まれた我が国は、海上輸送によって必要な資源や食料を輸入し、工業製品を輸出して経済を発展させてきました。最近では多くの製品の生産拠点が海外に移り、工業製品も輸入量が輸出量を上回る時代へと変化してきましたが、このような我が国を出入りする物資の実に96～97%は海上輸送によるものです。もちろん、日本人船員の優秀さには定評がありますし、我が国の技術者の手で設計・生産される工業製品や産業設備などの多くは、あらゆる面で世界最高レベルにあることは間違いありません。本校の卒業生も、このような貿易立国、技術立国日本の繁栄を支える一員として、世界で活躍しています。

しかしながら、近年ますます企業のグローバル化が進み、技術の高度化が加速しており、ものづくり産業では中国・韓国、情報通信産業ではインドなどの企業の台頭が著しく、我が国の国際競争力や技術力に黄色信号が灯るようになりました。こういう

情勢の中で、本校のみならず全国51校の国立高等専門学校に入学された皆さんは、我が国の将来を担う人材として、大きな期待がかけられています。本科で5年あるいは5年半、専攻科に進む人はさらに2年間勉強につけ、創造力とリーダーシップを備えた逞しい人間に育って欲しいと思います。

本校では、全ての学生が心すべき三つの教育目標を掲げています。
一つ、ジェントルマンシップ、レディシップ豊かな人間であること。
二つ、創造性豊かな技術者となること。

三つ、国際性豊かな社会人となることです。
広い視野をもった優秀な技術者になって社会で活躍して欲しい。でもその前に、自分のためだけでなく他人のためにも、何が正しいかを判断して行動できる立派な人間に育って欲しいということ。

「鉄は熱いうちに打て」といいまは、精神が柔軟で吸収力があり、本

当に勉強が大切なときです。しかし、その一方で、皆さんには先輩や同級生仲間とともに青春時代を大いに楽しんでもらいたいと思っっています。「よく学びよく遊べ」です。クラブ活動やサークル活動に積極的に参加することを勧めます。

また、学生寮に入る皆さんは、おそらく初めての経験と思いますが、寮は教室やクラブ活動とはまた違った共同生活の場です。皆が楽しくかつ実りある共同生活を送るために最も大切なことは何か。それは、一人ひとりが寮の規則を守り、お互い迷惑になるようなことは慎み、他人の個性を認め尊重することです。ホンダの創業者、本田宗一郎氏は根っからの技術屋で数々の名言・教訓を残しておられますが、人について「人間に差はない。あるのは違いだけだ」と言っています。人は一人ひとりみんな違いますし、それぞれ得手・不得手、長所・短所があります。また、お互いの相性と言うか、好き嫌いもあります。しかしながら、皆さんは一人ひとりが違うということを前提として、相手との違いを単なる違いとして受け容れ、誰もが楽しい寮生活が送れるように努めてください。

また、本田氏は「自分はこれが好きだと思えば、自分はこれを職業としたいというものを発見させるのが、教育の主眼のひとつである。」と

も語っています。本校の学生諸君にはぜひ在学中にそれを見つけて欲しいと願っています。

本校では、本校の教育目標に沿って、学則に則り、用意した教育カリキュラムに従って学生諸君の教育に当たってまいります。保護者の皆様におかれましても、本校の教育方針にご理解をいただき、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。



商船学科の特徴



商船学科航海コース主任

石田 邦光

今回は、高等専門学校における商船学科の特徴を紹介します。大きな特徴の1つ目は、学生が全国から集まっているということ。本校を例に取ると、電子機械工学科と制御情報工学科の学生の約95%が三重県出身であるのに対して、商船学科では約51%（216人中111人）程度です。他県出身者の比率（人数）は次の通りですが、いかに全国から集まって来ているかがわかります。愛知県9.7%（21人）、大阪府5.6%（12人）、兵庫県4.2%（9人）、静岡・神奈川県3.7%（8人）、和歌山県2.8%（6人）、岐阜・埼玉県2.3%（5人）、東京都・京都府・滋賀県1.9%（4人）、奈良・千葉・大分・鹿児島県1%（2人）、北海道・岩手・宮城・秋田・長野・福井・栃木・群馬・広島・徳島・高知県0.5%（1人）。

2つ目の大きな特徴は、1年間の大型練習船による実習があることです。これについては、これまで5年前期で座学を修了した後に行っていますが、今後は2年生で1ヶ月、4年生の後期で5ヶ月、そして6年生前期で6ヶ月の実習を行うように実習時期の変更が現在検討されています。この変更が決まれば、早ければ平成25年度から、そのための移行計画が実施される予定です。なお、決定次第、保護者の方々にも説明させて頂く予定です。

そして、3つ目の大きな特徴は、文部科学省の学校でありながら、カリキュラム等の教育内容は、国土交通省が認定する船員教育機関としての条件を満たしている必要があることです。教育内容は国際条約として批准されているSTCW条約（The International Convention on Standards of Training, Certification and Watchkeeping for Seafarers：船員の訓練及び資格証明並びに当直の基準に関する国際条約）に沿って行われることが義務づけられており、昨年度に大幅な条約改正があったため、その対応が求められることになり、本校でもカリキュラム等の改正を今後行っていく予定です。

商船学科・機関コースの紹介 （低学年のために）



商船学科・機関コース主任

伊藤 友仁

商船学科では3年生から航海と機関の二つのコースに分かれます。ところで、過去の学生には、本来の機関士の仕事を理解せず、あるいは別の理由でコースを選択してしまったケースが意外に多いそうです。そこで今回、特に低学年の人たちの為に、あらためて機関士の仕事とその進路など簡単に述べたいと思います。

一般に、船は船長、航海士が主役と見られがちですが、機関士は、主機（巨大なエンジンなど）や船特有の機械を理解し、安全運航を支える非常に重要な役割を担っています。機関士は「エンジニア」と呼ばれ、船のあらゆる機械を整備し円滑に操作するための、高度な知識と熟練技術を身につける必要があります。つまり、技術者の精鋭が船の機関士で、そのトップが機関長です。同じ船員でも航海士と機関士ではかなり仕事内容が異なり、それぞれの持ち場で主役であることに違いはありません。

機関コースを卒業した学生の進路は多種多様ですが、できれば本校卒業後は船会社への就職を希望します。近年、景気の低迷に伴い、大手外航船社でも以前のように莫大な利益を得ることが難しくなりました。全般に、船会社の新卒者採用も厳しくなっています。昨今の各社採用試験で、機関士の倍率の方が航海士より低いことは事実です。比較的高給が期待できる船員になりたかったら機関士を狙ってはどうかでしょう。但し、特に外航船員を目指すなら、二級以上の海技士（筆記）合格と少しでも高い英語力（TOEICスコア）が必要です。まずは、低学年で習う英数国などの基礎学力をしっかり身につけておくことが大切です。

低学年の皆さんには、将来の進路のことはまだ良くわからないと思います。しかし、いざれ必ず役に立ちますので、日々の勉強や課外活動を悔いの無いよう頑張ってください。

電子機械工学科について



電子機械工学科長

桐山 和彦

電子機械工学科は今年で開科されて26年目を迎えます。四半世紀に亘って多くの人材を社会に送り出してまいりました。記録に残っているだけでも100社近い数の企業に800人近い卒業生が入社致しました。また、毎年、大学および専攻科に進学し、研究を継続する学生もいます。大学院を経て民間および国の研究機関で現在も研究者として活躍している卒業生もいます。このような社会貢献はひとえに日頃の地道な教育の賜物であると考えております。高等専門学校の教育はややもすると詰め込み教育であると揶揄されますが、現実にはそのことが後々の社会生活において大いに役立っているという卒業生の言葉を耳にします。本校では167単位修得すれば卒業できますが、年間授業日当りに換算すると7時間/日となります。これは年間3ヶ月を超える長期休暇および土・日の休みを考えると決して多いとは言えません。現在、電子機械工学科では将来に向けて持続的な社会システムを支えることを目指し教育内容を現代的なものに一新し、新たな学科再編のための作業を行なっています。この中には機械システムと電気・電子システムの基礎をより鮮明にし、それらをよりわかりやすく丁寧に教育することが盛り込まれています。これは年々増加する理科教育離れや基礎学力の低下に対応するだけでなく、技術者としての基礎教育をもう一度根本的に見直すという主旨も入っています。一方、学科の柱をロボティクスとし、電子機械技術の教育の根幹としてカリキュラムに取り入れる予定です。2030年にはパーソナルロボットが各家庭に1台以上あるという予想がされる中、日本の将来の電子機械産業の担い手はロボット産業であると考えております。時代を先取りした教育は本校にとっても重要な位置付けになると考えます。世界が大きく変革する中、本校も大きくその責任を切ろうとしています。電子機械工学科のその社会的責任も益々重要になってきております。今後共皆様の御支援・御鞭撻の程宜しくお願い致します。

制御情報工学科について



制御情報工学科長

榎本 隆二

昭和63年に改組によって誕生した制御情報工学科は、この4月に新入生を25期生として迎え入れました。本学科は時代の変化にあわせて2回目のカリキュラム改訂を行っています。今年度は2回目の改訂の完成年度に当たります。今回の改訂では、産業界の要請に応じて、いくつかの科目を「情報応用システム」と「組込みシステム」に関するものに明示的に組み替えています。

5年生の就職の状況について述べます。制御情報工学科では、例年、6割程度が就職、4割程度が進学しています。ここ数年で就職試験の可否判定の傾向は、ゆとり教育世代の社会進出に伴って大きく変化しています。企業の採用担当者は基本的に「ゆとり教育世代の学生はしつかりとチエックしなければ怖くて採用できない」と言います。就職試験では、小学校上級から中学校で学習した数学や国語の問題をかなり速い速度で解かせて基礎学力を判定する職業能力に関する適性検査が行われます。この試験の足切り基準に達しない学生はその段階で脱落します。近年、この傾向が厳密化しています。小中学校の話だからと侮らず、問題集を買い込んで意識的にできるだけ速い速度で解くという習慣を身につけることを勧めます。

適性検査に合格すると面接が行われます。これは人事面接に始まり、多い会社では部長面接、取締役面接など合計4回ほど行われます。最近の傾向は流暢に喋れるか否かだけでなく、それまでの学生生活をどのように過ごしてきたかという中身を徹に入り細に入り問われるということです。目標を定めてそれを乗り越えた経験から仕事に対する積極性を判定し、挫折したときの状況からストレスに対する耐性を見極めようとしています。それらは経験がなければ語れません。なお、社会人（大人）とフォーマルな会話をしてきたかとか、物事を筋道立てて語れるか、という能力は半年程度の訓練では際だって向上しないと考えられます。平日頃から保護者や先生との会話のなかで注意深く、この力を磨いて下さい。

制御情報工学科ではこのような採用試験の動向の変化にあわせて、キャリア教育の充実策を模索中です。

一般教育科の現在



一般教育科長

富澤 明

今年度は、高専・技科大間人事交流制度により鈴鹿高専から1名の教員（国語）を迎えましたので、一般教育科には計15名の常勤教員がいます。その内訳は、国語2名、社会2名、数学3名、理科2名、保健体育2名、英語などの外国語4名です。その他に10名の非常勤教員とで本校の一般教育科目を担当しています。なお、本校における学科としての一般教育科の呼称は「一般教育」ですが、意味の混同を避けるため、学科を表す一般教育を一般教育科と、本文では表させていただきます。

本校の一般教育科目では、先に述べた6つの教科と芸術に関する科目について、高校と同等かそれ以上の内容のものを学びます。専門科目の基礎となる高度な内容を低学年から学ぶのが高専とは言え、卒業の高専生には高校で学ぶ知識も必要ですので、高校生と同年代の低学年（1〜3年生）では高校での内容も多く学びます。一方高学年（4〜5年生）では、大学の教養科目のような、経済学や哲学など人文・社会科学の科目や英語、ドイツ語などを学びます。

いま全国の高専では、世界で通用する技術者育成のための教育プログラムの改善に取り組んでいます。世界で通用する技術者とは、例えば、高度な基礎学力はもちろんのこと、高度な論理的思考能力、高度な問題解決実践能力、開発力、高度な分析力・判断力・決断力、リーダーシップ、世界に通じる英語コミュニケーション能力、協調性、各地域の歴史など世界を理解する知識、倫理観、日本文化に根ざしたアイデンティティ、などを身につけた技術者を指します。

一般教育科においても、教育プログラム改善についての議論が活発になされています。次の世代を担う技術者を育成するための教育プログラムの実現に取り組んでいます。

就職も進学も有利な専攻科を目指して



専攻科長

坂牧 孝規

本校の専攻科は、海事システム学専攻と生産システム工学専攻から構成され、本科（商船学科5年半、工業系5年）の教育を基礎とし、さらに専門的な技量・見識を身につけるための2年間のコースです。専攻科を修了した学生は、四年制大学を卒業したのと同等と認められ、商船学や工学の学士の学位を取得できるとともに、大学院に進学することも可能です。

最近の本校専攻科の特徴の一つに、早い時期での就職内々定があげられます。平成24年度は、海事システム学専攻修了予定者2名が就職を希望し、生産システム工学専攻修了予定者13名のうち9名が就職、4名が大学院進学を希望しています。本年度は、6月4日の時点で、就職希望者全員の内々定が決まりました。大学院進学については、推薦入試、学力入試に向けて学生たちは頑張っており、良好な結果が出始めています。

専攻科では、実学に基づき、さらに高度化、国際化を目指した教育が行われています。授業科目では、特別研究に大きなウエイトが置かれ、学会発表を目指した指導が行われています。在学中に国際学会大会で発表する学生もいます。さらに、費用支援制度を利用して、海外の語学研修プログラムなどに参加する学生も増えていきます。高等専門学校機構主催の海外インターンシップに、全国の高等専門学校から選ばれ参加した学生もいます。

専攻科で学ぶということは、就職進学で、より厳しい競争の中に飛び込むこととなります。学位取得も、決して安易な気持ちで乗り切れることはできません。夜遅くまで、また休日返上で頑張っている学生も多いようです。専攻科の2年間は、様々な試行錯誤と挑戦を体験する密度の高い学生生活になると思います。ここで獲得した「自立した社会感覚」が、就職進学に有利な専攻科につながるかと考えています。専攻科スタッフ一同は、専攻科を修了後、就職進出し、社会で活躍できる学生の育成を願っています。



シンガポール引率記

制御情報工学科 江崎 修央

国際交流推進室の事業の一環としてシンガポールに学生を2回引率しましたので、ご報告いたします。

平成23年9月には、MELキャンプに2名の学生と参加しました。MELキャンプは、Maritime Experimental Learningの略で、大型客船での乗船体験を通じて船舶に関する基礎知識や社会マナーについての経験を積むものです。参加者は、SMA (Singapore Maritime Academy) や船上での講義、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを行います。ベトナムやマレーシアへも寄港し、様々な体験ができたほか、多くの現地学生と友人になったようです。今でもFacebook等を通じて交流を深めている様子です。

講義を聴くことは、学生にとってはちょっと難しかったかもしれませんが、私にとってヒアリングの良い勉強となりました。あと、現地スタッフと喋らざるを得ない状況になりますので、スピーキングについても多くの経験を積むことができました。

平成24年度3月には、国際プログラミングコンテスト

の引率で研究室の学生2名と参加しました。コンテストは、現地の学生とペアを組みコンピュータプログラムでロボット(戦車)を作成し、他チームと対戦するものです。現地の学生と英語を使って作戦を考え、プログラミングするという事は良い経験になります。また、シンガポールやマレーシアの日系企業の見学にも出かけたので、海外事業に携わる日本人技術者の経験談などを聞くことができたことは有意義でした。学生は、朝の9時から16時までプログラミングを行います。授業終了後は現地の学生と食事に行ったり、観光をしていたようで、21時の門限ぎりぎりにダッシュで戻って来ていました。

一緒に行った学生は分かったと思いますが、私は英語が上手ではありません。ただ、相手のことを分かるようにする、自分のことを分かってもらおうとする姿勢があればコミュニケーションをとることができます。私の経験では、英語を喋れることがすべてではありません。このことを感じるために、まだ海外に行ったことのない学生さんは是非参加してみてください。



みんなの声

※テーマ※

留学して経験したいこと

- 留学経験を生かして外航船員になりたいです。(SN4)
- グランドキャニオンを直接見てみたい。(M4)
- 他の外国の人と共にその国の郷土料理を作りたい。
- 世界中の多くの技術者と触れ合うことにより、自分の視野を広げたいです。(I4)
- 便利な日本での生活から離れ、他国の文化、生活を学びたいです。(SE5)
- 普段、私たちが経験したことがない言葉や文化を体験したい。(海1)
- 英会話を身につけたいです。(生2)

※テーマ※

私の国際交流

- いつも寮の留学生と一緒にサッカーをしています。(SN4)
- MEL CAMPに参加しました。(I4)
- 海外を経験することで世界が広がりました。(SN5)
- 留学生と仲良くなったので、他の文化にも興味がわいた。(M5)
- 英語は嫌いでしたが、外国へ行ってみたら楽しくて好きになりました。(I5)
- 海外の海事系学生と交流し、世界を感じた。(海1)
- 国際会議で英語発表の難しさを知りました。(生2)





国際交流

海を舞台に、 世界をテーマに



専攻科
海事システム学専攻1年
正村 和也

私は今年3月、フィリピンの造船所のインターンシップに3週間参加しました。本インターンシップは高専機構が主催で「国際的に活躍する技術者を育成する」という目的で行われており、対象学生は全国の専攻科生及び専攻科進学予定者です。なお参加条件として、TOEIC 400点以上が必要です。

今回、私は2人の他高専の学生と共にTsunetsune Heavy Industries Cebu Inc. (以下THI) というフィリピンに生産拠点を置く、日本の造船会社に派遣されました。THIには1,400人のフィリピン人が就業しており、英語と現地のビサヤ語が飛び交う自由闊達な会社でした。

商船学を専攻する私にとって造船所での研修は貴重な経験であり、実際に建造中の船舶を目の前にして、造船の溶接技術や建造行程について学ぶことができました。なお研修は全て英語で行われ、私は相手の話を聞くのも自分の意思を伝えるのにも大変苦労しました。

私は将来外航船員になるため日々勉学に励んでいます。私に、実際に外国人を相手に働くということ、これほど難しいと考えていませんでした。今後は語学力に磨きをかけ、より実践的な海事技術者に成長したいです。

本インターンシップを通じて、私は異国の文化や風習に触



れたり国際的な企業のあり方を学べたりと、国際人としての第一歩を踏み出したのではないかと考えています。

ハワイでの国際インターンシップを通して



商船学科航海コース5年
前場 萌那江



わたしは3月10日から28日までハワイで過ごし、伝統航海術を学びました。ハワイでの国際インターンシップ参加は昨年引き続き2回目で、今年は学生のリーダーという立場で参加させていただきました。わたしが昨年と今年のプロプログラムで学んだMentoring

とは航海計器を一切使わず、星や風、波などの自然のみを頼りに進むポリネシアンの伝統的な航海術を言います。その中でも特に星を見て自らの位置を知ることが学びます。今回のプログラムで完璧に理解できたとは思いませんが、昨年よりは確実に理解することができました。学ぶ楽しさもわかりました。2週間はカウアイ島のKCCという学校で勉強し、最後の3日間はハワイ島に移動します。ハワイ島でのプログラムは現地の人たちとの班行動や寝袋での生活など、自分の行動力が試されるいい機会だと思います。カウアイ島では自由時間もわりとあるため、プールで泳いだりショッピングを楽しみました。週末のホームステイはホストファミリーの方がいろいろな場所に連れて行ってくれます。カウアイ島、ハワイ島、どちらも自分を成長させてくれました。2回目の参加でしたが、学ぶことは昨年よりも多かった気がします。

MEIクルーズにて学んだこと



電子機械工学科5年
徳田 政也

本校の電子機械工学科からの初めての参加者として行ってまいりました。

まず、MEI CAMPとは、客船クルーズにおいてSMA(Singapore Maritime Academy)の学生等と様々な体験をすることにより交際感覚を学ぶ企画です。

私はこのプログラムで初めて海外に行きました。そこで最初に驚いたことは、日本語が通じないことはもちろんですが英語が通じないことです。第一に喋りが速く、発音も訛っているの何を言っているか全然分からなかったです。私は自分自身の英語力の無さを痛感しました。しかし、SMAの学生は聞き直せばゆっくり、わかりやすい言葉で話してくれたこと、単語をつなげただけの私の言葉を頑張って理解してもらえたので何とか会話はできていたように思います。

自由時間には仲良くなった友達と一緒にプールで遊んだり食事に行ったりしたのですが、タイのプーケットに上陸したときに一緒に植下げの交渉をしたことが一番の思い出です。

最初は英語でしか会話ができない環境に戸惑いました。しかし、慣れれば少しくらいは会話もできるようになるし、何より努力しようと思う気持ちが大切だと思いました。



長期留学を終えて



電子機械工学科4年

岡崎 研人

私は、去年アメリカのカリフォルニアに半年間とニューヨークに3か月間、留学をしていました。学校では、私と同じような英語圏以外の国の人たちがいて、様々な国の人に出会いました。しかし、着いたばかりの時はジエスチャーを交えたり、単語をいうだけで話すという、全く英語ができないところから始めたため、バスなどのアナウンスが理解できず降りられなかったり、タクシーを呼ぶため電話を掛けたら、英語をしゃべれる人に代わってくれと言われ電話を切られるなど色々なトラブルがありました。しかし、そんな時、現地の人や友達の助けもあり、乗り切ることができました。その後、友達と徐々に英語が理解出来るようになり、会話ができるようになり、毎日が楽しくなりました。私は今回の留学で、アメリカでしか出来ない経験や他国の人との交流をすることが出来ました。

私は後輩達にアドバイスがあります。もし、自分、英語は苦手だからと思っている人でも、留学や海外の興味がもしあるなら迷わず、挑戦して下さい。



留学して考えたこと・思ったこと



電子機械工学科5年

ドーバン・ズン

電子機械工学科5年、ベトナム出身のズンです。鳥羽商船高等専門学校に来て3年目になり、今の私は昔と比べてかなり変わった気がします。

まずは日本人や外国人と会話が出来て、また仲間になれてとても楽しいです。先生方も、日本人の友達もいつも親しく話してくれていつまでも忘れられないでしょう。

外国人だから大変なことがいっぱいありますが、先生方はいつも優しく教えてくれるので安心です。ここに来てから先生に対する印象が変わりました。ベトナムの大学の先生はクラスの学生には一人か二人しか名前を覚えていません。さらに勉強で分からないことがあっても仕方が無い、なぜなら先生に会うのは極めて難しいからです。逆にこの先生はいつも生徒に、分からない事があればいつでも聞きにきてください」と言ってくれます。先生と話すときの本からの知識だけでなく現代の技術についてもいっぱい教えてくれるので本当に面白いと思いました。

鳥羽商船高専に来て専門の知識だけでなく体育や部活で健康になりました。この三年間で私はほとんどのスポーツにおいて自信がもてるようになりまし。

残る時間を無駄にしないように勉強も運動も精一杯やっていきたいと思っています。



母国と日本



制御情報学科5年

ニヤム・アマルバヤスガラン

私は、日本に来てから今年で4年目になります。東京で一年間、日本語を勉強した後、鳥羽商船高等専門学校に編入してきました。鳥羽に来たばかりの頃は分からないことが多かったですが、先生や先輩たちからいろいろ教えていただいたので徐々に慣れてきました。そして、お世話になった人々のおかげで、楽しい学生生活を送りながら、プログラミングや制御システムなどの勉強を学びました。卒業後、大学へ編入学しようと思、受験勉強を頑張っています。

私は、鳥羽の風と雨が好きです。出来るならば、モンゴルへ鳥羽の雨を持って帰りたいと時々思います。なぜなら、モンゴルで降る雨の量は日本と比べると本当に少ないのです。

留学して初めて分かったこと、気がついたことがたくさんあります。母国の発展や変化して行く様子を外から見たり、家族の大切さを感じたりしています。留学を決意して良かったと思っています。皆さんもチャンスがあれば留学してみてください。そして、皆さんの中で就職したり、編入学したりして家族や友人から離れて行く人が少なくないと思います。一人暮らしするときは、健康が一番大事なので、健康に気をつけて仕事や勉強に取り組んでください。



学生活動の紹介

全国高専プロコン

特別賞受賞



制御情報工学科3年
坂下 雄摩

今回は、私にとって初めてのプログラミングコンテストだったので、それほど重要なこととは任されないうらうと思っただけで参加しました。しかし、いざ始めてみると、アンドロイドの携帯端末にプログラムを打ちこむ重要な仕事をたくさんさせてもらえました。経験も無いのにいきなりそんなに重要なことを任されて大丈夫かと当時は思っていました。先輩方のおかげで最後までやりきることができました。

ことやっているらしいから見に来ました。」と話しかけてくれるなど、私たちの作品を知ってもらえ、とても嬉しかったです。ただ、あまりの緊張で途中で体調が悪くなり、先輩方に迷惑を掛けてしまいました。

プログラミングコンテストへの参加を通じて、技術力はもちろん向上したと思いますが、自分にとって精神的な成長がかなりあったと思います。そういった意味でも行ってよかったと感じたし、もう一度行ってみたいと考えています。

リーダーズ トレーニング



制御情報工学科5年
上野 珠あん

学生会会長の制御情報工学科5年上野珠あんです。今年の1月14、15日に岐阜の乗鞍青少年交流の家において行われた、平成23年度リーダーズトレーニングに参加しました。

リーダーズトレーニングとは、クラブ代表と学生会役員が参加する行事で、私は学生会役員として参加しました。学生会は、体育祭・カッター大会・海

体育祭について



制御情報工学科5年
西井 康介

私が今年度の体育祭の実行委員長を務めた制御情報工学科5年の西井です。

私が目指した体育祭は、「全員が楽しめる体育祭」というものです。そのため今年度は本物だけでなく観客側にもテントを設置して、応援する側も快適に応援することができるようにしたり、新しい競技を試してみたりしてみました。そのため、何度か他の学生会役員とぶつかり合いましたが、体育祭をよくするためにと思い、必死に頑張りました。しかし、これだけ準備してきたのですが、前日に雨が降ってリハーサルができないといった状況になり、ぶっつけ本番になってしまいました。それでも、学生会役員や実行委員の方ががんばってくれたおかげで何とか成功することができました。

私は体育祭という大きな学校行事で一番上に立つことの難しさや、実行委員や学生会役員をまとめて一つの目標に向かっ



(写真部提供)

ていく楽しさを学ぶことができました。終わってから、多くの学生や教官から「今年はよかったよ」と声をかけてもらえて本当にうれしかったです。またまだ反省点も多くあるので、そこは、来年の実行委員長にしっかりと引き継いで、同じミスはしないように頑張ってもらいたいと思います。



クラブの紹介

少林寺拳法



電子機械工学科3年
大戸 笑菜

私が少林寺拳法と出会って今年で11年になります。今までにいろんな大会に出る機会がありました。最近では、今年の3月に香川県で行われた全国高校選抜大会に出場しました。私は、女子有段単独演武の部に出ることになりました。やはり全国大会は県大会と違い、迫力もあり、コートに立つと、自分の思い通りの演武ができませんでした。また、練習時間はあってもかわらず、練習量が少なく、自分の甘さを情けなく思いました。結局、予選通過もできませんでした。

今年の12月には、神奈川県で全国大会が開かれます。今回は、姉と女子有段組演武の部に出場します。組演武なので姉と練習を合わせられる日は限られています。練習できる日は一杯練習し、同じ失敗を繰り返

さないようにしたいと思えます。また、10月に開かれる三重県大会でも姉と組み、4連覇出来るように日々練習に励もうと思っています。



私は、ただ大会で結果を残すことだけを目標してはいません。少林寺拳法の教えである「本当の強さ」が分かる人間になることを目指しています。肉体も鍛えながら精神も鍛える事ができる少林寺拳法に出会ったことに、とても感謝しています。

卓球部



電子機械工学科4年
堀口 竜麻

私たち卓球部は、今年、1年生が10人入部し、現在31人で活動しています。うち、27人が男子で4人が女子です。活動時間は、授業が終わったクラスから順次開始し、自分が納得するま

で遅くまで練習している人もいます。

前回の高専大会の結果は、団体戦については、男子が3位で女子は人数がそろわず出場権が獲得できませんでした。個人戦については、男子はいい結果ではありませんでしたが、女子は準優勝とベスト3という結果を残すことができました。



今年は、高専大会に向けて、全員が自分なりの目標を持ち、去年よりも遅くまで練習する人が増えました。さらに、今年は、OBの方も教えに来てくれています。そこで、試合運びの方法などの助言がとても参考になります。

また、今年の高専大会は、女子学生が2人入部したので女

子団体戦にも出場できるようになりました。男子については、3年前の団体戦で優勝したときの主力選手が2人卒業しましたが、新しいメンバーで大会に挑みます。男女とも今年は、優勝を目指して、がんばりたいと思います。個人戦については、自分で決めた目標よりも上を目指し、悔いの残らないようにがんばりたいと思います。

文芸部



制御情報工学科3年
中村 富実

文芸部の主な活動は、海学祭や新人生歓迎会に向けて、自分のオリジナルの小説を書き、冊子にして配る事です。小説の舞台設定や物語をすべて自分たちで考え、一つの作品を作りあげます。自分の世界をえがく楽しさと、言葉にする難しさが魅力だと思えます。文章を書くことによって、表現のヴァリエーションが増えたり、本を読むことが多くなったり、文章の書き方はもちろん、日常のささいな出来事にも目がいくようになったりしました。そういったこと

が小説のネタになり、新しい自分の世界を発見することにもなると思えます。

また、文芸部のなかには現在、イラスト同好会も含まれています。イラスト同好会では、デッサン、クロッキー、模写などを、色鉛筆、コピック、水彩を使って描くことを中心に活動しています。基本から学んでいくので、絵に自信がない人も楽しく活動することができます。

また、会話を忘れないのがイラスト同好会のモットーです。会話をすることで、気軽に描き方や塗り方を質問できると思っています。

図書館下に新しく部室もできました。今後はコンクールなどに積極的に出していきたいと思っています。





校内最新技術紹介

荒天航泊実験棟について



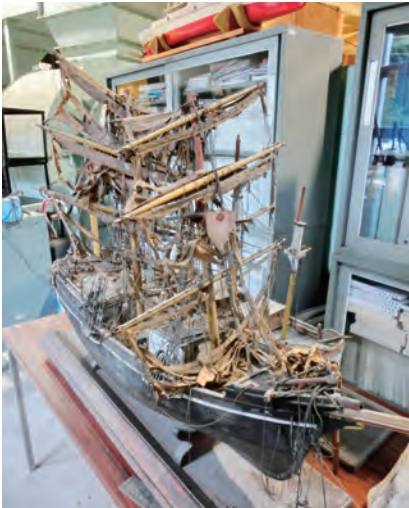
本校の学生だけではなく教職員の中でも、まだ一度も荒天航泊実験棟に足を踏み入れたことがない方がかなりおられると思います。中には場所すらも存じない方がいらっしやいます。荒天航泊実験棟は実習工場地区の奥まった所にある倉庫のような大きな建物です。

建屋内のパノラマ写真でお分かりのように、ここには海事流体力学関係の基本的な装置がほぼ揃っています。この建物と中の装置ができたのは昭和49年ですからもう40年近くになり、老朽化が進んでいましたが、ここ2、3年でいくつかの装置が更新されましたので、それを簡単に説明します。

ここでの一番大きな装置は風洞水槽で、ほぼ建家の長さ一杯あります。これは長さ8m、幅6m、水深0.6mの観測部に風や波を起こして、波浪中の船や海洋構造物の運動を模型試験によって調べます。最大風速は約8^{m/s}です。波を作る造波装置はかなり以前に使用出来なくなっていました。平成22年度の予算で更新され、最大10cmの任意の波高と周期の規則波だけではなく、実際の海洋波から計測された波浪スペクトラムを用いた不規則波を発生することができます。最近では、波浪発電や洋上風力発電などの再生可能エネルギー

の試験も行なっています。

平成23年度の予算で更新されたのが回流水槽です。これは長さ3m、幅1.4m、水深0.8mの観測部に最大1.5%の均一な流れを生じさせ、その中で模型船の船体抵抗や模型プロペラの性能を計測します。古い水槽は水が水平に回る水平循環式でしたが、新水槽はより高性能を求めて水が垂直に回る垂直循環式となりました。本水槽は比較的小型ですが、その割には大きな観測部を持ち、さらに流れの均一性が±2%以内という現時点では世界最高水準の性能を誇っております。また広い作業ステージを持ち、大勢の学生が効率良く安全に実験ができるようになっていきます。既に学生実験、卒業研究、特別研究で使用されてい



商船学科

伊藤 政光

ますが、東海地方唯一の汎用回流水槽でもあることから外部からの利用も進めています。

この他に、錨の性能を計測する砂水槽、小型回流水槽といった実験装置、卒研室、ゼミ室もあり、夏の暑さと冬の寒ささえ我慢できれば、大変充実した施設で、これを有効に活用していくことが重要な使命と考えています。

新しい設備の話ばかりでしたが、ここには本校130年余の歴史に係る物品もあります。このジャック・スパロウ船長が出てきそうな帆船模型は大正5年建造の本校練習船「あまき」の模型です。かなり以前に廃棄される寸前に救出してきたものですが、修復技術が無いために破損したままになっていました。できれば修復し、勇姿を再現したいものです。この他にも、戦前の省エネを狙った各種特殊船尾模型や、各種錨模型などもあり、専門家にお見せすると皆感心されます。

紙面の都合で十分な説明ができませんでしたが、百聞は一見にしかずということで、気楽においで頂ければと思います。



新任紹介

学生に望むこと



一般教育
石谷 春樹

高専間人事交流制度により鈴鹿高専から参りました。担当教科は国語です。研究分野は、日本近代文学の研究で、主に芥川龍之介。大正、昭和初期の文学状況の研究です。

赴任して気になったことがあります。それは学生がよく「無理」とか「できない」という言葉を口にする事です。決めつけてしまえば、できることでも、できなくなってしまう。私のモットーは「何とかなる。何とかする限り。」です。自分の可能性を信じ、向上心を持って取り組んでほしいと思います。

国語の指導目標は、読解力の養成と表現力の向上です。漢字を覚えるのも表現力を向上させるためです。暗記教科と考えないでください。大切なのは、「自分でよく噛み、自分の舌でよく味わうこと」です。実際に自分で読み、自分で考えないと、本当の文学作品の良さはわかりません。それは、いくら栄養価が高いと聞いても、自分で食べなければ栄養にならないのと同じです。あらずじを他人から聞いて、理解した気になるのではなく、社会に出て役立つように、使える国語力を身につけてください。

私の大切にしたいことは、「挨拶をする。返事をする。お礼を言う。」の以上三点です。国語は人（作者）の気持ちを考える教科です。思いやりのある優しい学生になって下さい。

最後に、学校は楽しいところです。今しかできないことに挑戦して、学校生活を楽しんでください。よろしく願います。



商船学科
小田 真輝

この度、商船学科の助教を務めさせていただくことになりました小田真輝と申します。3月に修士課程を修了したばかりの若輩者ですが、誠心誠意努力していきます。

私は、平成22年3月に東京海洋大学海洋工学部海洋電子機械工学科を卒業し、同年4月に東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科海洋システム工学専攻に進学、今年3月に工学修士の学位を取得しました。学部、修士課程では機械設計研究室に在籍し、機械の設計や加工、材料について研究を行っていました。

出身は東京で、鳥羽に関しては何も知らず、新生活を楽しみにしていたのと同時に少し不安に感じることもありましたが、しかし、教職員の方々、学生みなさんに温かく迎えていただき、仕事にも生活にも慣れつつあります。着任してから約2ヶ月、授業や実習、クラブ活動など学生と交流する機会が多ありますが、非常にまじめで挨拶もしっかりしてくれる学生が多いと感じました。商船高専ならではの授業や実習、寮生活やクラブ活動に真剣に取り組む、このような環境の中で、教育・研究活動に携わる事ができることを大変うれしく思います。学生みなさんには自分のやりたいこと、夢を見つけてその実現に向けて努力し、充実した学生生活を送ってほしいと思います。私自身みなさんの力になれるよう積極的に取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。



事務部長
山下 文一

南国土佐、高知県（高知大学）から赴任して、早くも2ヶ月がたちました。着任した4月3日は、大雨・波浪警報により始業式が中止となる出来事がありましたが、出勤途上の暁寮から校舎へ下る坂道で寮生の「おはようございます」という元気な挨拶に、かつて、高知工業高専で20数年勤務していたことから、青少年機構、大学を経て、今また久振りに高専で勤務できることを感慨深く思っています。4月の中旬まで満開だった桜とともに新入生の宿泊オリエンテーションに参加したり、東海・北陸地区や商船高専の校長・部長会議やいろいろな行事に追われるままに日々が過ぎてしまいました。

三重県は東海地区で唯一訪れたことがなく、当然、鳥羽市も今回初めての土地です。鳥羽城跡の城山公園から望む鳥羽湾に感激し、鳥巡りでそれぞれの自然や文化、歴史、もちろん旬の食に思いをはせ、周辺地域も含めあらためて伊勢志摩国立公園を肌で感じたいと計画を練っています。

さて、仕事面においてはまだまだ要領を得ませんが、私が勤務した高専は法人化前でしたので、平成16年度に法人化された高専がどのように進化、変革しているのか関心事のひとつです。法人化によって制度とともに、事務職員に求められるものも変わりました。できない方向に考えるより、できる方法を考え、教職員みんなと協働して業務に取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

教職員の人事異動

(平成24年3月21日付け)

【採用】

○職員 総務課人事労務係事務補佐員 浦田 侑衣

(平成24年3月31日付け)

【退職】

○教員 商船学科機関コース教授 佐藤 宗男

○職員 総務課企画室企画・地域連携係長 荒木 徹

学生課教務係 橋口 真里

テクノセンター 再雇用職員 竹内 正幸

(平成24年3月31日付け辞職)

【転出】

○職員 奈良教育大学入試課長 ← 上西 浩司（学生課長）

三重大学財務部契約チーム ← 石川 好美（総務課人事労務係人事労務主任）

(平成24年4月1日付け)

【転入】

○職員 事務部長 山下 文一（高知大学研究協力部地域連携課長より）

学生課長 三浦 栄一（名古屋工業大学サブチームリーダーより）

学生課教務係 高橋 正人（金沢大学学生部入試課入学試験係より）

【配置換】

○教員 一関高専制御情報工学科准教授 ← 八戸 俊貴（電子機械工学科准教授）

一般教育 准教授 石谷 春樹（鈴鹿高専准教授より）

○職員 石川高専学生課教務係 ← 津田 冴子（学生課入試・支援係）

総務課財務・経理係長 山本 敬児（総務課調達係長）

総務課総務係総務主任 松本 志保子（学生課教務係学務主任）

総務課調達係 小竹 悠哉（機構本部管理課旅費係より）

総務課調達係事務補佐員 江崎 幸代（総務課総務係）

【併任】

○教員 教務主事 伊藤 文雄

学生主事 岸川 良威

テクノセンター長 山下 晃司

副テクノセンター長 出江 幸重

教務主事補 嶋岡 芳弘

学生主事補 境 善行

寮務主事補 北原 司

【採用】

○教員 商船学科 助教 小田 真輝

商船学科再雇用教員 教授 佐藤 宗男

○職員 総務課企画室企画・地域連携係 岩田 剛

学生課入試・支援係 川合 洋平

総務課企画室再雇用職員 荒木 徹

学生課教務係事務補佐員 岩本 梨加

【昇任】

○教員 電子機械工学科 教授 桐山 和彦

電子機械工学科 教授 山下 晃司

制御情報工学科 教授 榎本 隆二

一般教育 教授 富澤 明

一般教育 教授 鏡 ますみ

専攻科 准教授 今井 康之

○職員 総務課人事労務係長 小西 恵

総務課調達係長 高吉 康弘

学生課入試・支援係長 岡宮 剛

学生課学生生活係学生生活主任 岡田 慎一

テクノセンター技術専門職員 木下 元浩

(平成24年4月16日付け)

【採用】

○職員 総合情報センター技術補佐員 木村 佳嗣

平成23年度卒業証書、 修了証書授与式を挙

平成23年度電子機械工学科・制御情報工学科卒業証書授与式並びに専攻科（生産システム工学専攻）修了証書授与式が、去る3月5日（月）10時30分から本校第2体育館において挙行された。

藤田校長から、一人一人に証書が授与され、来賓、保護者、教職員及び在学生から祝福を受けて、学窓を巣立っていった。



平成24年度 名誉教授授与式

平成24年4月16日、名誉教授称号授与式が校長室にて行われました。授与式では、藤田校長から佐藤教員に称号の辞令が授与されました。



公開講座・出前授業実施



本校は、小・中学生及び一般を対象に地域に根ざした高等教育・研究機関として公開講座・出前授業を開設しています。

公開講座

サイテクランド in 鳥羽商船

講座名	開催日
手作り太陽電池（中学生）	8月6日(月) 8月7日(火)
LEGOで自動走行ロボットを作ろう（中学生）	8月9日(木)
Wiiリモコンでゲームプログラミング（中学生）	8月10日(金)
NC工作機械でキーホルダーを作ろう（小学生）	8月21日(火)
おもしろ理科実験（中学生）	8月22日(水)
君が船長 船でGo!（小学生）	8月23日(木)
小学生のためのバレーボール教室（小学生）	10月15日(月) 10月29日(月)

その他の講座

講座名	開催日
みえアカデミックセミナー（一般）	7月29日(日)
練習船「鳥羽丸」の一般公開と体験航海、カッターレース大会（四日市港まつり）（小中学生・一般）	8月5日(日)
練習船「鳥羽丸」による名古屋港PR活動及び一般公開、セイルドリル見学（小中学生・一般）	11月10日(土) 11月11日(日)

出前授業

体験型学習

授業名	開催日
加茂小学校 「レゴを用いたロボット製作入門」	5月25日(金)
鳥羽小学校 「レゴを用いたロボット製作入門」	6月13日(水)

授業名	開催日
滋賀県草津市立玉川中学校 「航海システム論」	7月3日(火)
安楽島小学校 「風に向かって走れ(ウィンドカー作製)」	7月4日(水)

編集後記



学校だよりの第76号をお届けいたします。本号では、「国際交流」を特集として関連するいろいろな記事を掲載しました。海外での体験やアジアの学校の話など、これから国際交流をしようと考えている学生の皆さんには大変参考になると思います。また、本校の紹介、学生や教職員のさまざまな取り組みや活躍と新任教職員の紹介などの記事を掲載しま

した。表紙に掲載した写真は、春に行われた行事の「入学式」「新入生オリエンテーション」「体育祭」と「学寮でのバーベキューパーティー」の風景です。本号の記事を執筆いただいた方々、みんなの声に投稿していただいた学生の皆さんと写真をお寄せいただいた方々には、大変感謝いたします。

(溝口記)